<記入例②> 学校 × 校舎内待避可能タイプ

【学校名称〇〇〇〇】

土砂災害警戒避難確保計画

作成年月日:2018年7月

年 月 日作成

1.計画の目的

この計画は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(以降、「土砂災害防止法」と称す)第八条の二第1項に基づくものであり、当校の生徒・職員の土砂災害時の円滑かつ迅速な避難の確保を図ることを目的とする。

2.計画の報告

計画を作成及び必要に応じて見直し・修正をしたときは、土砂災害防止法第八条の二第2項に基づき、遅滞なく、当該計画を市町村長へ報告する。

3.計画の適用範囲

この計画は、当校に勤務又は利用する全ての者に適用するものとする。

【当校の状況】

人 数						
昼間	·夜間	休 日				
生徒	職員	生徒	職員			
昼 間	昼間 昼間		休 日			
約 200 名 約 30 名		&b 100 女	% 5 1			
夜 間 夜 間		約 100 名 ※部活動時	約 15 名 ※部活動時			
		不叫力 判时	不明/自期时			

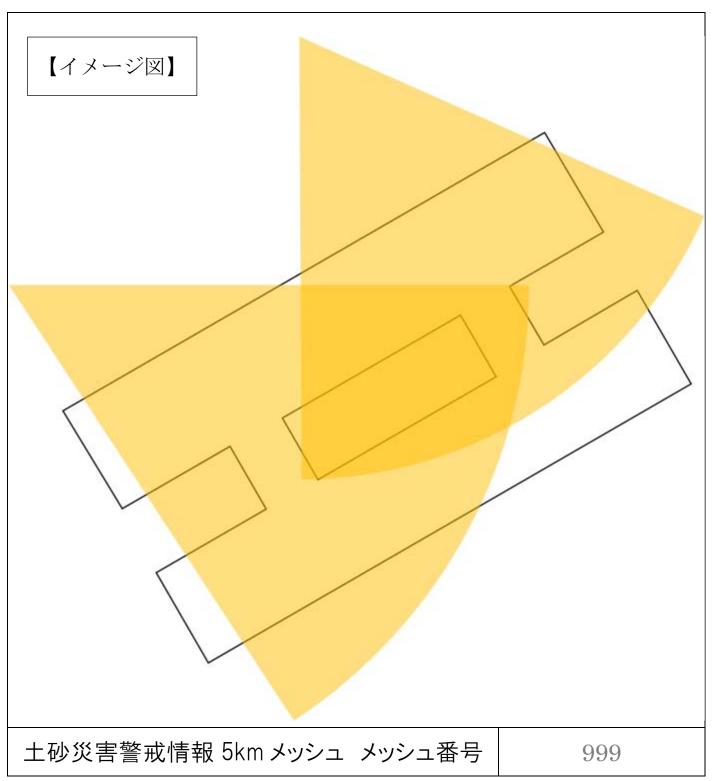
4.土砂災害の危険性および避難対応の把握

土砂災害の危険性について、様式 1-1 に当校周辺の土砂災害警戒区域等を整理するとともに、状況を加味した避難対応を様式 1-2 に示す。

■当校で想定される土砂災害の危険性

【主担当: 校長 】

当校周辺の土砂災害警戒区域等を下図(または別紙)に示す。



■当校の避難タイプ(総合判断表)

【主担当: 校長 】

当校の避難タイプを下表に示す。

		当校の立地・構造・階	数条件に応じた避難タイプ
		A	B
		■校舎外避難原則タイプ	■校舎内避難可能タイプ
#	7	校舎外への避難が原則です。ただし、以下の点に留意する必要があります。	校舎内での避難が可能です。ただし、以下の点に留意する必要があります。
走数		・台風や移動性低気圧など、ある程 度降雨の予想ができる場合が望ま	・想定を超えた被災をする可能性がある
や運営体制		しい ・避難受入先との連携が必要となる ・避難中に被害に遭うリスクがある	・停電等に伴う施設機能の低下によって想定した避難ができない場合がある・孤立被害につながる可能性がある
から		■校舎外避難原則タイプ(準備段階)	■校舎内避難可能タイプ(準備段階)
生徒数や運営体制からみた避難行動実施可能性	•	校舎外への避難が必要な立地・ 構造・階数の条件にありますが、生 徒数や運営体制面で避難が困難で す。 状況を改善するには、スタッフを増 やして生徒数に見合った運営体制 を実現するか、外部機関・施設によ る支援体制を強化する等の方策に より「校舎外避難原則タイプ」を目指 すことが考えられます。	校舎内での避難が必要な立地・構造・階数の条件にありますが、生徒数や運営体制面で避難が困難です。 状況を改善するには、スタッフを増やして生徒数に見合った運営体制を実現するか、外部機関・施設による支援体制を強化する等の方策により「校舎内避難可能タイプ」を目指すことが考えられます。 また、体制はそのままであっても、設備の改良や避難対象となる生徒が使用する教室の見直し等を行うことにより、状況を改善することも考えられます。

本校は	校舎内待避可能タイプ	です。
-----	------------	-----

■土砂災害に対する状況想定

当校で考えられる要配慮者の避難対応が必要となるような土砂災害発生時の状況を、下記に整理する(該当するチェック欄にチェック)。

また、それぞれの想定に応じて、様式 2-1(様式 2-2)に参集基準及び体制を整理する。

- □当施設は入所系施設であるため、下記の状況を想定し、 様式 2-1 に参集基準及び体制、避難(待避)基準を示す
 - 想定1. 天候悪化などにより、避難(待避)対応が必要となる状況
 - 想定2. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、 昼間から夕方にかけて避難(待避)対応が必要となる状況
 - 想定3. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、 <u>夜間から明け方にかけて避難(待避)対応が必要</u>となる状況
- ☑学校であるため、下記の状況を想定し、 様式 2-2 に参集基準及び体制、避難(待避)基準を示す
 - 想定4. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、 学校を事前に休校する対応がとれる状況
 - 想定5. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、 通常通りに学校を開けているが、 学校を休校する対応がとれる</u>状況

■役割分担表【主担当: 校長 】

年 月 日作成

<本校>

担当	業務内容	担当者	備考
総括責任者	☑ 総括責任(避難判断、 防災対応についての指揮ほか全般) □	□ 総括責任者: 校長 □ 代理①: 教頭 □ 代理②: 教務主任、 安全教育主任	
情報収集 ·連絡班	 ☑ 気象・災害の情報収集 ☑ 職員への連絡、職員・職員家族の安否確認 ☑ 関係機関との連絡・調整 ☑ 生徒の保護者への連絡 ☑ 地域住民やボランティア団体、近隣の施設への救援要請等 ☑ 避難状況のとりまとめ □ 	□ リーダー: 教頭 □ 代理①: 情報教育主任 □ 代理②: 教務主任 □ メンバー: 適宜指示を出す	
避難誘導班	☑ 生徒·職員の安全確認 ☑ 校舎、設備の被害状況確認 ☑ 生徒·保護者·職員への状況説明 ☑ 生徒·職員の避難誘導 ☑ 生徒の保護者への引き渡し □	□ リーダー: 教頭 □ 代理①: 安全教育主任 □ 代理②: 教務主任 □ メンバー: 適宜指示を出す	
物資班	図 物資の普段からの維持管理 図 物資の運搬 図 物資の被災時の管理 □	□ リーダー: 事務職員 □ 代理①: □ 代理②: □ メンバー:	

<協力施設>

担当	業務内容	協力施設·担当者	備考
近隣の学校	□ 本校へ職員を派遣し、 災害支援にあたる□ 避難者の受入れを担当する☑ 状況を共有し、 支援の必要性があれば依頼する	○○小学校	

(様式2②)

■緊急連絡網【主担当:連絡網整備担当 】

年 月 日作成

校長○○ 携帯:999-9999-999 <状況に応じて> 夜勤者や休日出勤者 等 白字:9999-99-9999 安全教育主任〇〇 情報教育主任〇〇 教頭○○ 携帯:999-9999-999 携帯:999-9999-999 携帯:999-9999-999 自宅:9999-99-9999 自宅 9999-99-9999 自字: 9999-99-9999 安全教育主任〇〇 職員〇〇 職員〇〇 携帯:999-9999-999 携帯:999-9999-999 携帯:999-9999-999 自宅:9999-99-9999 自宅:9999-99-9999 自宅:9999-99-9999 情報教育主任〇〇 職員〇〇 職員〇〇 携帯:999-9999-999 携帯:999-9999-999 携帯:999-9999-999 自字:9999-99-9999 白字: 9999-99-9999 自字:9999-99-9999 携帯: 携帯: 携帯: 自宅: 自宅: 自宅: 携帯: 携帯: 携帯: 自宅: 自宅: 自宅: 携帯: 携帯: 携帯: 白宅: 白宅: 白宅: 携帯: 携帯: 携帯: 自宅: 自宅: 自宅:

■参集基準及び体制、休校判断基準 【主担当: 校長 】

月 日作成 年 ☑ 想定4 図 想定5 ※想定5の状況から 急激に事態が進展するなどして 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、 学校を事前に休校する対応がとれる 通常通りに学校を開けているが、 避難(待避)対応が必要となった場合の 学校を休校する対応がとれる 澼難(待澼)基準 体制 参集基準 出動体制 出動体制 避難(待避)基準 参集基準 □ 避難準備·高齢者等避難開始 が発令 第一次体制 □ 近隣市町村で ☑ 総括責任者 □ 近隣市町村で ☑ 総括責任者 大雨注意報が発表 ☑ 情報収集:連絡班 大雨注意報が発表 ☑ 情報収集:連絡班 □ 土砂災害警戒情報 が発表 今後の状況に備 ☑ 前日から対応 □ 避難誘導班 □ 累積雨量が()mm を超過 えて情報を収集 ☑ 前日から対応 □ 避難誘導班 ☑ 夜間から対応 □ 物資班 □ 物資班 □ 時間雨量が()mm を超過 したり、関係者に ☑ 前兆現象 を確認 連絡をとったりで ☑ (避難勧告 が発令 きる体制 第二次体制 □ 大雨注意報が発表 ☑ 総括責任者 □ 大雨注意報が発表 ☑ 総括責任者 ☑ 朝から対応 ☑ 情報収集·連絡班 学校休校の判 □ 前日から対応 ☑ 情報収集·連絡班 断をおこなえる ☑ 夜間から対応 □ 避難誘導班 □ 避難誘導班 □ 物資班 体制 □ 物資班 第三次体制 □ 大雨警報 ☑ 総括責任者 子どもの送迎や (土砂災害)が発表 ☑ 情報収集:連絡班 引き渡しを開始 ☑ 朝から対応 ☑ 避難誘導班 できる体制 □ 届から対応 ☑ 物資班 休校 ☑ 避難準備・高齢者等避難開始 が発令 ☑ 避難準備・高齢者等避難開始 が発令 判断基準 □ 土砂災害警戒情報 が発表 □ 土砂災害警戒情報 が発表 □ 累積雨量が()mm を超過 □ 累積雨量が()mm を超過 □ 時間雨量が()mm を超過 □ 時間雨量が()mm を超過 □ 前兆現象 を確認 ☑ 前兆現象 を確認 ☑ (教育委員会からの連絡があった場合 ☑ (教育委員会からの連絡があった場合 ☑ (大雨警報が発表された場合 ☑ (大雨警報が発表された場合

■情報収集・伝達事項の整理

当校に関わる災害の危険性などを把握するために情報収集をおこなうとともに、職員や外部機関、生徒保護者などへの情報伝達をおこなうことで、円滑かつ迅速な避難誘導へと繋げること目指し、情報収集・伝達事項について、下記に整理する。

- (1) 情報収集及び情報伝達を担う担当者
 - ·様式 2① に示す「情報収集·連絡班」を基本とする
 - · 夜間や休日など通常体制と異なる場合は、 「情報収集·連絡班」が参集するまで在勤者が役割を担う
 - ・そのほか(

(2)情報収集

- ・収集する主な情報及び収集方法を、様式 3-1 に整理する。
- ・基本的には、下記のような情報を対象とする。
 - "気象情報"・"避難情報"などの行政からの情報
 - "雨量"などの実測値
 - 当校周辺で確認される"土砂災害の予兆現象"など
- ・そのほか(

(3) 情報伝達

- ・入手情報の伝達・共有ルートを様式 3-2 に整理する。
- ・また、外部機関との連携が想定される場合には、あらかじめ その旨を相談し、緊急連絡先として整理する。
- ・そのほか(

■入手情報の概要・入手方法等 【主担当:情報収集・連絡班 】

(様式3-1)

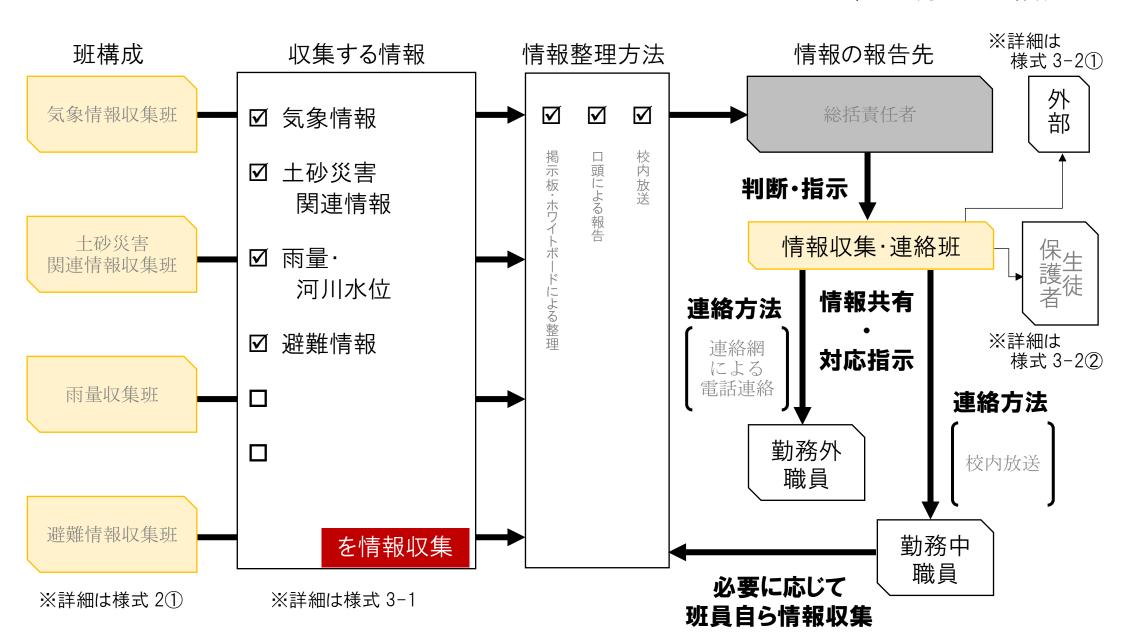
年 月 日作成

※事前にウェブサイトをお気に入り登録するなどして、緊急時に備える【使用するPC: 生徒情報登録用PC】

	情報名	概要	活用場面	主な入手方法	備考
気象情報	大雨注意報/	災害がおこるおそれのあるときに気象庁が発表す	☑ 体制の移行	テレビ、ラジオ、	
	大雨警報/	る雨の強さを表した基準	☑ 避難判断	ウェブサイト	
	大雨特別警報			そのほか()	
	記録的短時間大雨情報	数年に一度程度しか発生しないような大雨時に発	□ 体制の移行	テレビ、ラジオ、	
		表。現在の降雨が災害の発生につながる可能性	☑ 避難判断	ウェブサイト	
		があることを意味する		そのほか()	
	天気予報·台風情報·	数日・週間単位の天気の移り変わりを把握するた	☑ 体制の移行	テレビ、ラジオ、	
	雨雲の様子等	めに特に重要となる情報	□ 避難判断	ウェブサイト	
				そのほか(自治体メール)	
土砂災害	土砂災害警戒情報	大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、	☑ 体制の移行	テレビ、ラジオ、	
関連情報		危険度がさらに高まったときに、市町村単位で警	☑ 避難判断	ウェブサイト	
		戒をよびかける情報		そのほか()	
	土砂災害警戒判定	土砂災害警戒情報、大雨警報等を補足する情	□ 体制の移行	ウェブサイト	
	メッシュ情報	報。5km 四方の領域(メッシュ)ごとに土砂災害発	□ 避難判断	そのほか()	
		生の危険度を5段階に判定した結果を表示			
	土砂災害の予兆現象	土砂災害発生前には、予兆現象が確認されるこ	□ 体制の移行	職員の目視、	
		とがある。各種情報が発表・発令されていない状	☑ 避難判断	ライブカメラ	
		況においても有益な情報として活用できる		そのほか()	
雨量·	雨量情報	現状の雨量及び過去3日程度の雨量(累計雨	☑ 体制の移行	テレビ、ラジオ、	
河川水位		量)が確認できる(一定の雨量が長期間継続して	□ 避難判断	ウェブサイト	
		いる場合等注意が必要)		そのほか()	
	河川水位情報	現状の水位及び過去 1 日程度の水位変化が確	□ 体制の移行	テレビ、ラジオ、	
		認できる(一定の基準以上の水位上昇が確認で	□ 避難判断	ウェブサイト	
		きる場合等注意が必要)		そのほか()	
避難情報	避難準備·高齢者等避難	市町村から発令される避難の基準。要配慮者施	□ 体制の移行	テレビ、ラジオ、	
	開始/避難勧告/避難	- 設等では早めの避難が求められている。	☑ 避難判断	ウェブサイト	
	指示(緊急)			そのほか(戸別受信機)	

■入手情報の伝達・共有ルート【主担当:情報収集・連絡班 】

(様式3-2)

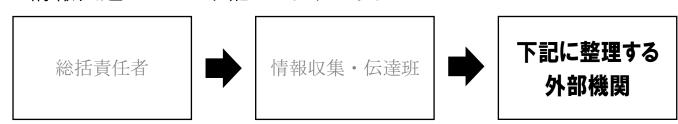


■外部への情報伝達ルート及び緊急連絡先一覧表

【主担当:情報収集•連絡班】

年 月 日作成

- 1. 下記の際に外部へ情報伝達をおこなう(該当する体制をチェック)
 - □ 第2次体制時 □ 第3次体制時 ☑ 避難(待避)行動開始時
- 2. 情報伝達ルートは下記のとおりである



3. 緊急連絡先一覧表を下記に整理する

本级开	電	話	FAV	担当者
連絡先		(夜間)	FAX	氏名
近隣の学校〇〇	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	00 00
医療施設〇〇	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	00 00
自治体防災課	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	00 00
自治体教育委員会	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	00 00
自治体消防本部	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	00 00
消防·救急	119	119		
警察	110	110		

■生徒情報把握資料 【主担当: 担任 】

年 月 日作成

①生徒情報一覧表(基本情報)

番号	クラス	氏名	生年月日	性別	移動時の支援の要否
1	1-1	00 00	9999/99/99	男	不要
2	1-1	00 00	9999/99/99	男	不要
3	1-1	00 00	9999/99/99	女	不要

②生徒情報一覧表(個票)

番号		1
クラス		1-1
氏 名		00 00
生年月日		9999/99/99
性 別		男
心身の状態		健康
服用中の薬		なし
搬送方法		徒歩
避難に係る	留意事項	なし
	氏 名	00 00
連絡先1	続 柄	母
電話		999-9999-9999
氏 名		00 00
連絡先2	続 柄	祖父
	電話	999-9999-9999

■緊急時の避難誘導

避難誘導については、下記のとおり行う。

(1) 避難場所

・避難場所の名称を下表に整理するとともに、様式 4-1 または 様式 4-2 で図示する。

(2) 避難経路

·避難経路について 様式 4-1 または 様式 4-2 で図示する。

(3) 避難誘導

・避難場所までの移動距離及び移動手段を下表に整理する。

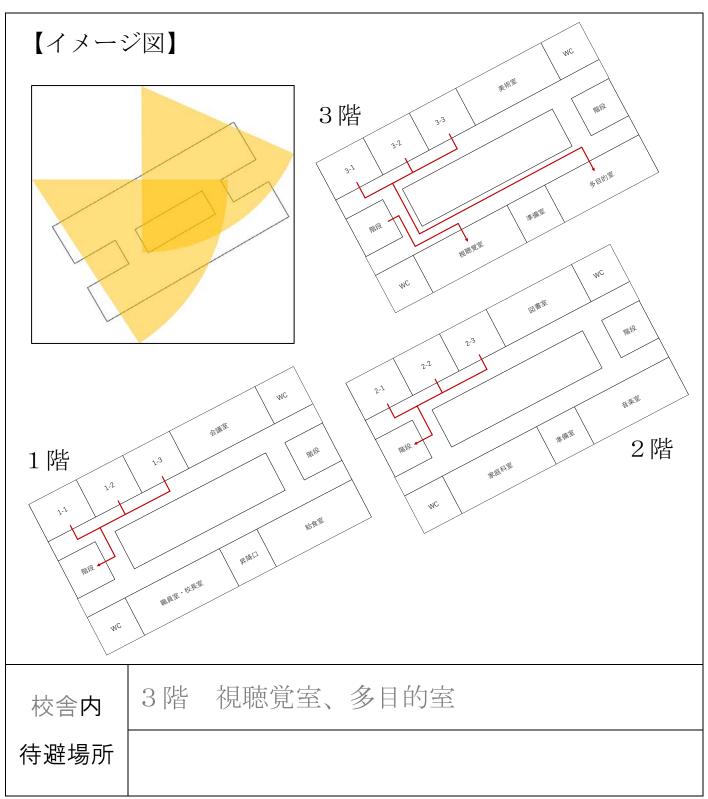
施設タイプ チェック (5ページ結果)	避難 方法	避難場所	移動 距離	移動 手段
	校舎外 避難原則		() m	□ 徒歩 □ 車両 ()台
√	校舎内 待避可能	3階視聴覚室 3階多目的室		

- ※ 校舎外避難が原則な場合においても、 大雨等で校舎外避難が困難だと想定される場合には、 校舎内で比較的安全と思われる場所へ待避を行う。
- ※ 校舎内待避が可能な場合においても、 今後の状況悪化に不安がある場合などにおいては、 避難時間に余裕がある場合のみ校舎外避難を行う。

校舎内待避

■待避ルートと留意点 【主担当:避難誘導班】

校舎内待避時のルートと待避の際の留意点を下図(または別紙)に示す。



■備蓄品および災害時必要品チェックリスト (様式5)

【主担当:物資班】

年 月 日作成

避難(待避)の確保を図るため、下表に示す備品(チェックを入れたもの、括弧内には個 数)を準備する。また、日頃からその維持管理に努めるものとする。

大 区分	小 区分	品名	必要 物資	携行 品	備蓄品	品名	必要 物資	携行 品	備蓄 品
		米()				お菓子類()			
	食料品等	飲料水(230人分) [1人1日3リットル]	✓		✓	栄養補助食品() [経管栄養剤、ブリックゼリー等]			
食 —	4	乾パン(230人分)	✓		✓				
食料		カセットコンロ()				厨房の大きな鍋()			
	炊事	炊飯器()				やかん()			
	道具等	紙皿()				割り箸()			
		サーバー一式				職員ノート PC(10)	✓		✓
情	情報	カルテ管理用 PC				携帯電話(各自)	✓		✓
	機器等	テレビ(1)	✓			ラジオ(2)	✓		✓
		ファックス(1)	✓						
		 	✓		✓	ティッシュペ-パ-(5 ケ-ス)	✓		✓
		リハヒ゛リハ゜ンツ M·L()				紙オムツ M·L()	✓		
	生活	尿取りパット夜用()				ウェットティッシュ(5 ケ-ス)	✓		✓
日	用品等	ポータブルトイレ(5 ケ-ス)	✓		✓	女性用ナプキン(5 ケ-ス)	✓		✓
日常生活品		吸いのみ()				石けん()			
活 品		ごみ袋(5 ケ-ス)	✓		✓				
		石油ストーブ(2)	✓		✓	カセットガスストーブ()			
		石油()				蓄電池()			
	照明、	カセットガス発電機()				懐中電灯(10)	✓		✓
	暖房等	ローソク(10 ケ-ス)	✓		✓	電池(20ヶ-ス)	✓		✓
		ライター(5ヶ-ス)	✓		✓				
	W	生徒書類一式	✓		✓	小口金庫			
	その他	勤務表	✓		✓				
		体温計(5)	✓		✓	血圧計()			
	医療品	SP02()				各ユニット薬の板			
	等	解熱剤()				補液()			
医		AED()							
医療介護用品	移送	ストレッチャー(1)	✓		✓	車椅子(2)	✓		✓
護田田	用具等								
品		酸素濃縮機()				酸素ボンベ()			
	医療	吸引器()				吸引チューブ()			
	施設用	マスク(5ケ-ス)	✓		✓	手袋 M·L()			
		1		1		<u> </u>	1		

年 月 日作成

■教育・訓練の年間計画

下記のとおり、教育・訓練を実施する。なお、具体の月日や内容については、 当校の状況を勘案しその都度検討することとする。

①避難確保計画の更新:共有

実施予定月

4 月

新年度の切り替わりの時期において、 新たな体制を反映した避難確保計画へと更新するとともに、 各班・各職員が避難確保計画を共有できるように努める。

②避難に関わる教育・説明

実施予定月

4 月

避難対応の必要性が高まる出水期(6月~10月)に向けて、 職員や生徒・保護者を対象に、 避難時に必要となる知識や災害についての知識の習得に努める。

※必要に応じて、随時実施する

③訓練の実施

実施予定月

5~6 月

避難対応の必要性が高まる出水期(6月~10月)に向けて、 職員や生徒(保護者)を対象に、 避難確保計画に基づく訓練を実施し、その実効性を確認する。

④避難確保計画の検証

実施予定月

5~6 月

上記の"避難に関わる教育·説明"、"訓練の実施"や、 出水期(6月~10月)の対応を踏まえて、避難確保計画の 実効性について検証をし、課題や問題の解決に努める。